

[脳神経内科]

[研修の目的]

内科医として必要な神経診察を系統的に行うことが出来る。その上で、画像検査、神経生理検査の的確なオーダーと評価、指導医との治療方針決定に参加できる。

[研修指導医]

伊藤充子（脳神経内科部長）

日本内科学会認定内科医、内科学会総合内科専門医、日本神経学会神経内科専門医・指導医、難病指定医、身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する診断医師

細井泰志（脳神経内科医長）

日本内科学会認定内科医、内科学会総合内科専門医、日本神経学会神経内科専門医・指導医、難病指定医、身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に規定する診断医師

[研修コース]

当院内科ローテーションの一環として一般内科医に求められる診察知識・手技を修得する 1 ヶ月程度の研修を予定。希望によって期間は相談可。

[研修指導体制]

病棟では、指導医のもとで受け持ち医として入院患者の治療に従事し、その実際を行う。救急患者については、原則的にすべての患者に関わるようにする。カンファレンス、回診、抄読会などに参加し、発表や討論を行う。週間スケジュールとしては、月曜日：脳外科合同カンファレンス、火曜日：認知症ケアラウンド、水曜：総回診、月曜～金曜：夕方の症例カンファレンスなどがあり、それらに参加し、脳神経内科疾患への知識と理解を深める。

[研修内容及び到達目標]

脳神経内科における診察、検査、治療に関する基本的な知識や手技を身につける。

1. 病歴聴取を的確に行い、それをまとめ、病歴、既往歴、家族歴、診察所見等から鑑別診断を挙げ、必要な検査を組み、確定診断に至る過程を学ぶ。
2. 神経所見（意識、高次脳機能、脳神経、運動機能、深部腱反射、感覚など）の取り方、記載の仕方を学ぶ。
3. 腰椎穿刺、筋電図、神経伝導速度、脳波、頸動脈エコーなどの検査手技を経験できる。
4. 神経画像検査（頭部 CT、頭部・脊髄 MRI、SPECT など）を評価できる。
5. カンファレンスで新入院患者や担当症例についてのプレゼンテーションが適切に出来る。

6. 脳・脊髄血管障害（脳梗塞など）、変性疾患（パーキンソン病など）、炎症性・脱髄性疾患、認知症疾患、てんかん、神経遺伝性疾患などについて、経験することが出来る。
7. それぞれの疾患の病態を理解し、問診、神経所見、検査、エビデンスに基づいた治療計画と治療が行える。
8. 他の専門科医へのコンサルトが適切に行え、多職種を交えてのチーム医療が出来る。